

思い出のなつかし映像で歴史を振り返る

9月7日、NHK旭川放送局、町は農村環境改善センターで「なつかしの東川」映像セミナーを開きました。



NHK旭川放送局の開局80周年記念、写真甲子園20周年にちなんで、①昭和初期から平成②写真甲子園③旭川電気軌道の電車映像④当時平田豆腐店主だった平田節子さんの姿を追ったミニドキュメント「北海道中びざくりげ」の番組映像の4部構成でフィルム、ビデオの映像を上映しました。

9月7日、8の両日、キトウシ森林公園で第55回から楽しくフェスティバルが開かれました。



東川町農協「大雪清流てっぺんスクール」の子供たちも自分たちが作ったトウモロコシを直売

秋の会場は、町内農家直売の新米、じゃが芋、トウモロコシ、たまねぎ、かぼちゃ、トマト、枝豆、ほうれん草など、収穫したばかりの農産物がどっさり山積み。主会場のリサイクル市では、子供服、玩具の掘り出し物を探しに家族連れが次々と来場しました。

神饌田、登熟早く2年連続で8月の稲刈り

8月30日、東2号北1、三田常男さん(66)の北海道神宮神饌田(しんせんでん)で恒例の稲刈りが行われました。

今年の稲は、遅い春の訪れで生育が心配されましたが、6、7月の好天続きで持ち直し、昨年に続いて2年連続で8月の早い稲刈り。昨年より1日遅いものの2年前の豊作年に比べても10日早い抜穂祭(ぬいぼさい)を迎え

ました。

吉田源彦宮司の祝詞(はらえことば)に続いて、農協青年部6人の介助役、12人の早乙女が雨でぬかるむ田んぼの中に入りました。

今年の早乙女は、語学研修で来町中の台湾、中国からの研修生ら。慣れない手つきで稲刈りしました。収穫した新米「ゆめぴりか」10俵は同神宮の新嘗(にいなめ)祭で神前に奉納します。



長期滞在の首都圏大学生が実習成果の発表会



した。

青山学院大学の学生10人は、9月13日から4泊5日間滞在し、「文化のラボ実習」と題してレポート研究。「もつと交通の便を良くし、特産品開発して道外に観光をPRすべき」などと発表しました。

今年町を訪れた大学生は、この2大15人のほか、滋賀県立大学、江戸川大学、千葉大学大学院、日本大学の学生合せて65人。町づくりへの取り組みがゼミナール研究の課題などとして取り上げられ、来町ラッシュとなりました。

出来秋の祭りに人出

9月1日、東川町農協は同農協特設会場で第11回大雪清流てっぺん祭りを開きました。前日までの雨が晴れ、久しぶりの好天で人出は最高。出来秋の祭りを楽しみました。

飲料水商品として全国初の地域団体商標を獲得した「大雪旭岳湧水」の登録を祝ってくす玉割りで幕開けしました。

「ひがしかわサラダ」の安全、安心なおいしさをアピールする野菜直売に

29年ぶりの8月稲刈り、新米初出荷

9月4日、町内で新米の出荷が始まりました。今年



6、7月に戻したから、茎数はちよつと少ないけれど良いようだ」とうれしい笑顔。この日の出荷米は水分16・2%、たんばく含有量6・8%、アミロース含有率18・5%、整粒歩合も80%以上と最高品質の出来を見せ

9月4日、町内で新米の出荷が始まりました。今年の出荷になることが多く、今年も「ゆめぴりか」で町内の皮切りとなりました。「雪解けが遅れたし、田植え時期がちよつと寒かったから心配したけれど、

6月以降の好天で順調な生育を見せた今年、町内は29年ぶりに8月の稲刈りが実現し、9月下旬ごろまでに全域で順調に米の出荷が進みました。

加え、今年は旭川地方卸売市場、キョクイチの社員が会場野菜のせり販売も。卸売市場のせり人が立会してせりが始まりました。市価1本400円ほど

津市立村木小学校の児童8人と第二小学校児童15人が越中踊り「せり込み蝶六」を合同踊り披露。観客から大きな拍手を受けました。



もする長芋が100円から200円という超お買い得値で次々落札します。最初戸惑っていた参加者でしたが、徐々に上がる手も積極的になってゲーム感覚の野菜競り落としを楽しみました。ステージでは3年ぶりに来町した魚